



～スペシャルセミナー～

公益社団法人日本産科婦人科学会・公益社団法人日本産婦人科医会

女性の健康週間

産婦人科医は、女性を守り続けます。

—生涯主治医がいる安心を—



女性の不定愁訴と漢方

講演3

女性の不定愁訴を漢方でコントロールする方法

不定愁訴とは、一つに定まらず、多岐にわたる不快な自覚症状のことをいう。ホルモン変動の波にさらされる女性には不定愁訴の訴えが多く、例えば動悸（どうき）、イライラ、頭痛、むくみ、ほてり、眠れないなど、また冷えや腰痛、倦怠（けんたい）感、便秘、肩こりといった症状も挙げられる。

いわゆる西洋医学ではこうした症状を訴えても重大な病気ではないと判断されがちだが、当人は日常生活に支障を感じる。そんなときに漢方薬が役に立つ。

「証」という言葉が漢方医学にある。「証」は「タイプ」と考えるとわかりやすい。その人の体质がどんなタイプかを見極めることで、それに合った漢方薬を選ぶことができる。

証の例を挙げよう。まずは「虚実」。虚証は体力がなく、きやしゃなタイプ。胃腸が弱く、免疫力も低い。実証はがっちりしており体力のあるタイプ。虚証の方には体の中の足りないものを漢方薬で補う治療を、そして実証の方には余っているものを取り除く治療を行う。

次に「寒熱」という証。寒証は冷えやすい寒

自らのタイプにあつた漢方選びを

がりのタイプ。治療は体を温める漢方を用いる。熱証は暑がりのタイプ。体を冷ます治療を行う。

女性の体調不良を考えるときに最も役立つ証の概念は「气血水」だ。人の体は氣という目に見えないエネルギーと、血液や養分などを指す血、そして体を流れる液体などの水という3つから成るという考え方だ。

不定愁訴のうち、例えばイライラは氣の流れが逆流する気逆と考えられる。倦怠感は氣、または血が不足する気虚や血虛、水が一部分にたまる水毒の症状である。

証は漢方にとて物差しであり、それぞれの証に合わせ薬が処方される。働く女性を悩ます症状に合った漢方もあるので、適切に選んでほしい。



霞が関ビル診療所 婦人科 丸山 綾氏



女性特有の疾患

講演4

女性を悩ますよくある疾患、子宮内膜症・子宮筋腫

月経痛・過多月経の陰に病気が潜む

同じ状態を作りだす GnRH アナログ製剤や黄体ホルモン製剤なども治療に用いられる。

子宮筋腫は筋肉の塊のような良性の腫瘍だ。30代では 20~30%、40代では 40% の女性に見られるありふれた病気といえる。過多月経や月経痛のほか、腫瘍が大きくなると腰部を圧迫して腰痛や排尿障害、不妊や流産の原因となることもある。症状の進行を止めるためにホルモン剤などが用いられるが、改善しない場合には手術をすることになる。

手術には筋膜部分だけを取り除く方法と、子宮全体を取り除く方法がある。前者は術後の妊娠・出産は可能だが、再発の可能性を残す。後者は再発や子宮がんの心配からも解放されるが、妊娠はできなくなる。筋腫の大きさなどによって、開腹手術か腹腔鏡手術などが選択される。



咲江レディスクリニック 院長 丹羽 暁江氏

Q&A 皆様から寄せられたご質問に講師がお答えしました

Q1: 中学生の娘が子宮頸がんを予防する HPVワクチン接種後に「多様な症状」が表れる可能性について心配しています。

A1: 「多様な症状」については、ワクチンを接種していない同年代の方々にも一定の割合で起きていることが、データからわかっています。子宮頸がんを将来にわたり予防できるメリットについて伝えていただければと思います。(木村氏)

Q2: 更年期を過ぎれば婦人科は関係ないと思っていたしました。女性の人生の後半ではどのようなことに気を付けるべきでしょうか。

A2: 更年期症状が落ち込んでいるからも様々な女性特有の病気の心配があります。特に閉経後1年以上たってから月経のような出血がある場合、子宮頸がん検診を受けていない人では7~8人に1人の割

合で子宮のがんが見つかります。また高齢の女性の場合、排尿に悩みを持つ方も多いですが、婦人科的な治療で治る場合もありますのでご相談ください。(木村氏)

Q3: 月経の時、月経痛がひどい、眼が強いなどで休みがちです。閉経までピルを飲んで月経周期を整える以外に対処できないのでしょうか。

A3: 婦人科医に相談しながら、ピルを上手に使いこなしていくだけだと思います。またピルの他にも、漢方やサプリ、メンタルケアなど、自分に合った対処法を試してみてはいかがでしょう。(対馬氏)

Q4: 30代に入り、疲れが取れないを感じるようになりました。世代ごとの不調の症状や、その乗り越え方を教えてください。

A4: 漢方では女性は7歳ごとに年を取るといわれるよう、年代ごとに体の変化を考えながら薬を使っています。補剤という、体に足りなくなったものを補っていく漢方薬もありますので、上手に使っていただけだと思います。(丸山氏)

Q5: 現在40代ほどの子宮筋腫があり、経過観察中です。気を付けるべきこと、また筋腫を小さくする方法があれば教えてください。

A5: 薬などを使わずに筋腫を小さくする方法は残念ながらありませんが、4歳くらいの筋腫はまだ小さい方ですので、経過観察で良いと思います。あまりに月経痛がひどい、また月経の量が多いときには、我慢は禁物です。早めに受診してください。(丹羽氏)

広告協賛

